

砂名の ベトナムに乾杯

第31回 チャンスの女神には後ろ髪がない

「チャンスの女神には後ろ髪がない」起業セミナーに行くときよく耳にする格言です。「チャンスだ!」とピンと来たら、迷わず掴まえること。でないと逃してしまうというわけですね。それにしても…前髪しなくて後頭部ツルっぱげの女神って、どんな容姿? 想像するとちょっと笑えてしまいますよね。

私は基本的に自分が興味を持ったこと、やりたいと思った仕事をして今日まで来たと思います。不思議なことに「やりたいこと」にフォーカスした瞬間、向こうからチャンスがやって来たことが何度もありました。ホーチミンに来た経緯については第3回「向こうからやって来たご縁」でも書いています。

東京では舞台写真の撮影の仕事をしていました。動く被写体を撮るのが好きで、バイクや車も、仕事としてだけでなく、趣味でも撮影していました。特にモトクロスが好きで、2005年菅生(宮城県)で初開催の世界選手権、そして同じく菅生で二年連続開催した世界選手権、どちらも東京から駆けつけて撮影しています。当時世界チャンピオンだったステファン・エバーツ(ベルギー)が二年連続で優勝しており、2006年は、彼の引退試合でもありました。その最後の年に、私は前年に菅生で撮影した写真を取めたCDを、本レース前で食事中だった彼のところにズケズケ行って手渡したのです。握手したその手のひらが薄く小さく、



ステファン・エバーツ、ゼッケン「72」。ジャンプが多いとタイムが落ちるのですが、彼はものともせず、まるで牛若丸の八艘飛び。置きピンで撮影しましたが、鳥肌ものでした。

細い指が豆だらけ、ざらっと乾いた感触を今も思い出します。

さてその会場のトイレの個室で、「PRESS」とだけ印刷されたパスを拾いました。落とし主を探したのですが会場はごった返してしまいましたが、イベントはすでに終盤でしたので、私はそのパスを首から下げて、一般客は入れないプレスエリアに入りました。そこでアメリカ公演で一緒だった大鼓(おおつづみ)奏者の大倉正之助さんにバッタリ再開。「今度、写真を撮りに来てよ」と声を掛けられ、後に新国立劇場での舞台撮影の仕事をお願いされたのでした。続いてモナコのガルニエ劇場、ミツレミア(クラシックカーのレース)、曹洞宗大本山総持寺での奉納舞など、次々と貴重なお仕事をさせていただきました。

私ごととはさておき。ホーチミン市に日本酒の酒蔵ができます。(この原稿を書いている時点で)工場の建設に続いて酒の仕込みが始まりました。ベトナム一のクラフトビール会社が投資をしています。そこに日本の蔵元の技術支援が必要

でした。ハノイから日本の蔵元数社に打診されましたが、このコロナ禍で手を挙げる蔵元さんはなかなか現れなかったそうです。引き受けたのは和歌山県の平和酒造さんでした。苦しいのはみな同じ。ですがこの苦境に、あえて果敢に勝負に出る。平和酒造さんは、兜町に工場とレストランを併設した「どぶろく醸造所」を建設、6月17日オープン! また賞という賞には国内外を問わず、すべてにエントリーしろ! というのが山本典正社長の命令だそうです。最近、ホリエモンさんの宇宙開発事業に協力していることでも話題になっていますね。

さて、客足がなかなか戻らず、売り上げは前年度比を大きく下回っている【蔵KURA】Kaku-Uchi & SAKE Shopと角打ち【日本酒で乾杯!】ですが、次々とイベントやペアリングの機会を頂戴しております。臆せず、精一杯、取り組んで行く所存です。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。